

美術館だより

No.121
Jan 7, 2022

Contents

- 1 企画展「ランス美術館コレクション 風景画のはじまり コローから印象派へ」(近代美術館)
- 2-3 企画展紹介「ランス美術館コレクション 風景画のはじまり コローから印象派へ」(近代美術館)
- 4 企画展紹介「おいでよ!花鳥画の世界」(五浦美術館)
- 5-6 事業レポート
- 7 企業パートナーシップ事業(近代美術館)
- 8 インフォメーション

茨城県近代美術館
「ランス美術館コレクション 風景画のはじまり コローから印象派へ」より



ジャン=バティスト・カミーユ・コロー
(1796-1875)
《イタリアのダンス》
1865-70年
油彩/カンヴァス
Inv. 887.3.1
ランス美術館
©MBA Reims 2019/
Photo : C. Devleeschauwer

ジャン=バティスト・カミーユ・コロー(1796-1875)は、生涯を通してイタリアやフランス各地を旅して回り、その記憶をもとに、時々印象や感情などを反映しながら数多くの風景画を描きました。コローは、秋冬はアトリエで制作していたものの、春と夏は戸外制作に勤しみ、自然を愛で、観察と写生を繰り返しました。本作は、林の中で、タンバリンを持っている男性と赤いスカートの女性が、彼らの後ろの女性が楽器を爪弾くのに合わせて「サルタレロ」(イタリアに古くか

ら伝わる陽気でテンポの速いダンス)を踊る情景を描いています。コローが自然を詩的に解釈して描いた「思ひ出」と呼ばれる作品群の1点で、ナポリの入り江に着想を得たと推定される背景の建物と海岸も、必ずしも実景を忠実に再現したものではありません。コローが試みたのは、実際の風景に向き合った記憶を念頭に置きながらも、観る者にノスタルジーを抱かせるような詩情豊かな空間を創出することだったのです。

[近代美術館 首席学芸員 澤渡麻里]

企画展紹介

ランス美術館コレクション 風景画のはじまり コローから印象派へ

会 期：2022(令和4)年2月9日(水)～3月27日(日)
 開館時間：午前9時30分～午後5時(入場は午後4時30分まで)
 休 館 日：3月22日(火) 水戸の梅まつり期間中は無休
 入 場 料：一般1,210(1,100)円/満70歳以上600(550)円/
 高大生1,000(870)円/小中生490(370)円
 ※()内は20名以上の団体料金
 ※3月5日(土)は満70歳以上の方は入場無料
 ※障害者手帳等をご持参の方は無料
 ※春休み期間を除く土曜日は高校生以下は無料
 ※茨城県立の美術館(近代美術館、天心記念五浦美術館、陶
 芸美術館)主催の展覧会で1年間に何回でもご利用いた
 だける共通年間パスポート(一般3,150円/高大生2,100
 円/小中生1,050円)を各美術館にて販売中
 主 催：茨城県近代美術館
 後 援：在日フランス大使館/アンスティチュ・フランセ日本/
 水戸市/朝日新聞水戸総局/茨城新聞社/
 NHK水戸放送局/産経新聞社水戸支局/
 東京新聞水戸支局/日本経済新聞社水戸支局/
 毎日新聞水戸支局/読売新聞水戸支局
 協 力：日本航空
 企画・監修：ランス美術館 Exposition produite et gérée par le Musée
 des Beaux-Arts de la VILLE DE REIMS EN FRANCE.
 企画協力：プレントラスト
 この展覧会は企業パートナーの支援を受けています

WEB予約をおすすめします

当館HPより「日時指定WEB整理券」(無料)を取得された方が優先
 入場となります。来館日の1カ月前より予約可能です。
 詳細は当館HPをご覧ください。

展覧会の概要

フランス北東部、シャンパンの本場・シャンパーニュ
 地方の中心地ランスは、496年にフランク国王クロ
 ヴィスがキリスト教に改宗し、その後の歴代フランス国
 王の戴冠式が行われたノートルダム大聖堂(現在の建物

は13世紀建造)を擁する由緒ある地です。街の中心に
 建つランス美術館は、近代以降、シャンパン醸造や織
 維産業によって財を成した地元の美術コレクターから
 の作品寄贈を受け、特に同地の主要なシャンパン・メゾ
 ン、ポメリー社の経営者アンリ・ヴァニエ(1832-1907)
 がランス市に遺贈したコレクションを核として発展して
 きました。19世紀フランス美術の主要な動向を網羅す
 る同館所蔵品の中でも、近代風景画の一群はフランス
 で最も重要なコレクションの一つに数えられています。
 とりわけ、詩的で叙情的な風景画で名高い巨匠ジャン＝
 バティスト・カミーユ・コロー(1796-1875)の作品を27
 点、ルーヴル美術館に次ぐ規模で所蔵していることは
 特筆される点です。

本展は、ランス美術館のコレクションから選りすぐ
 った油彩画作品と、版画・資料約80点によって、フランス
 近代絵画における風景表現の重要性を改めてひもとき
 ながら、約100年にわたる風景画の展開を一望する展覧
 会となります。

17世紀以降、フランスの風景画は神話や物語を伴う
 理想的風景として発展し、アトリエの中で合成ないし再
 構成された架空の自然が描かれました。しかしながら、
 19世紀に入り、持ち運びが容易なチューブ入り絵具が
 発明されたことによって戸外での制作が容易になり、鉄
 道網が発達して旅行が一般的になると、画家たちはア
 トリエから戸外に出て現実の自然に向き合い、その瑞々
 しい魅力や力強さ、輝きを新鮮な印象とともに生き生き
 と表現するようになります。

本展では、コローの師であるアシル＝エトナ・ミシャロ
 ン(1796-1822)、ジャン＝ヴィクトール・ベルタン



- ジャン＝ヴィクトール・ベルタン
《風景》1820年 油彩/カンヴァス Inv. D. 901.1.1
国立造形センター(文化省)より寄託(1901年)
- ギュスターヴ・クールベ
《レマン湖の岸辺(急流)》1875年頃 油彩/カンヴァス Inv. 907.19.73
- ジャン＝バティスト・カミーユ・コロー
《湖畔の木々の下のふたりの姉妹》1865-70年
油彩/カンヴァス Inv. 887.3.82
- テオドール・ルソー
《沼》1842-43年 油彩/カンヴァス Inv. 907.19.227
- コンスタン・トロワイヨン
《ノルマンディー、牛と羊の群れの帰り道》1856年 油彩/板
Inv. 907.19.234



1842)の理想化から写実へ向かう風景画を皮切りに、田舎や郊外の田園風景に惹かれたバルビゾン派と、ランス美術館が誇るコロー作品16点を紹介します。そして、手つかずの荒々しい自然のありのままの姿を捉えたギュスターヴ・クールベ(1819-1877)をはじめ、戸外制作の先駆者の一人であり、水と大気と光の変化を画面に定着しようとしたウジェーヌ・ブーダン(1824-1898)といった、近代絵画の展開に端緒を開いた画家たちにも注目します。そして、展覧会の最終章では、先達たちの新しい試みを滋養としながら、やがては風景を輝かしい色彩によって「光」そのものとして表現するにいたる印象派の画家たちを紹介します。

みどころ

けぶるような色彩による叙情的な風景画が日本でも人気の高いジャン＝バティスト・カミーユ・コロー。16点というまとまった点数により、初期から晩年まで画風の変遷を辿りながら、様々な土地への旅を通して生まれた詩的情緒豊かな風景画の世界をご堪能いただく貴重な機会です。

ウジェーヌ・ブーダンは、ノルマンディー地方の港町ル・アーヴルで17歳のクロード・モネ(1840-1926)に出会い、未来の巨匠を光あふれる戸外での制作に導いたことで知られています。空と雲、水の描写に優れたブーダンは海景画を多く描き、コローからは「空の王者」と称賛されました。本展ではブーダンに一章をさき、海や港、船、浜辺のリゾートといった画家が得意としたモチーフによる作品をはじめ、やや珍しい動物画も紹介し、光と大気の繊細なニュアンスをとらえようとしたブーダンの魅力を余すところなくお伝えいたします。

さて、本展には、茨城県近代美術館が所蔵するクロード・モネ《ポール＝ドモワの洞窟》(1886年)と同じ時期に

同じ場所(ブルターニュ地方のベリール)を描いた《ベリールの岩礁》(1886年)が出品されます。これらは、モネが後に展開することになる、「積わら」や「ルーアン大聖堂」、「睡蓮」といった同じモチーフを、異なる季節や時間帯、気象条件のもと、様々に変化する光の効果を追究して何点も描く「連作」の試みにつながっていく作品です。会場では、「兄弟作」ともいべき《ポール＝ドモワの洞窟》と《ベリールの岩礁》を並べてご紹介します。普段は水戸とランスという遠く離れた地にある2点を至近で見比べていただくことで、色彩や筆触、構図などの共通点や相違点など、様々な発見があることでしょう。

最後に、この展覧会は、ランス美術館が現在大規模改修で休館中のため、同館所蔵の主要作品の出品が可能となり、実現しました。また、コロナ禍により海外展の中止が相次ぐ中、流行の合間を縫うようにしてフランスから日本へ作品が輸送されて本展の全国巡回が可能となったのも、奇跡的なことだったといえるでしょう。この貴重な機会をどうぞお見逃しなく!

[茨城県近代美術館 首席学芸員 澤渡麻里]

- | | | | |
|---|---|----|--|
| 6 | ウジェーヌ・ブーダン
《水飲み場の牛の群れ》
1880-95年
油彩/カンヴァス
Inv. 907.19.33 | 10 | ビエール＝オーギュスト・ルノワール
《風景》1890年頃
油彩/板に裏打ちされたカンヴァス
Inv. 949.1.61 |
| 7 | ウジェーヌ・ブーダン
《ベルク、出航》1890年
油彩/カンヴァス
Inv. 907.19.34 | 11 | クロード・モネ
《ベリールの岩礁》1886年
油彩/カンヴァス
Inv. 907.19.191 |
| 8 | カミーユ・ピサロ
《ル＝ヴル美術館》1902年
油彩/カンヴァス
Inv. 907.19.208 | 12 | クロード・モネ
《ポール＝ドモワの洞窟》
1886年 油彩/カンヴァス
茨城県近代美術館
※参考出品 |
| 9 | ビエール＝オーギュスト・ルノワール
《ノルマンディーの海景》
油彩/カンヴァス
Inv. 978.10.141 | | 所蔵は記載が無いものは
ランス美術館
©MBA Reims 2019/
Photo : C. Devleeschauwer |



企画展紹介 おいでよ!花鳥画の世界

天心記念
五浦美術館

会 期：2022(令和4)年2月11日(金・祝)～4月17日(日)
開館時間：午前9時30分～午後5時(入場は午後4時30分まで)
休 館 日：毎週月曜日
(ただし、令和4年3月21日(月・祝)は開館。翌22日(火)は休館)
入 場 料：一般420(370)円／満70歳以上210(180)円／
高大生210(160)円／小中生160(100)円
※()内は20名以上の団体料金
※障害者手帳等をご持参の方は無料
※春休み期間を除く土曜日は高校生以下無料
※令和4年2月12日(土)は満70歳以上の方は無料
主 催：茨城県天心記念五浦美術館

展覧会の概要

四季折々の花の美しい形や香り、鳥たちの愛らしいしぐさや心地よい鳴き声は、古来より人の心を潤してきました。美しい動植物をモチーフに、生命感あふれる表現がなされた花鳥画は、いつの時代も観る者を惹きつける魅力があります。東洋画の主要ジャンルとして確立した花鳥画は、我が国でも受容され、日本の四季の中で育まれながら、江戸時代には狩野派、土佐派、琳派、長崎派(南蘋派)、円山四条派などさまざまな流派により独自の発展を遂げていきます。また、明治以降は西洋写実表現の影響や画家の個性が重要視されるなど、新たな展開を見せ、大正・昭和・平成と多様な表現が生み出されてきました。

本展では、茨城県近代美術館所蔵作品を主とした花鳥画作品27点をご紹介します。表現の多様さと動植物に向けられた画家の眼差しを通して、時代を隔てても変わる事のない魅力的な花鳥画の世界をご覧ください。

みどころ

この展覧会では、明治から平成までの花鳥画作品を展示します。明治から昭和戦前期の花鳥画の分野に大きな足跡を残した読画会からは、会の中心であった荒木十畝をはじめ、十畝門下で茨城出身の五島耕畝、永田春水などを紹介します。中でも五島耕畝の「孔雀乃図」は当館初公開であり、雌雄の孔雀が細部まで丁寧に描かれた繊細優美な描写となっています。

五浦の作家の一人である木村武山は、歴史画、仏画のほか、花鳥画作品もたくさん描いており、再興第11回院展出品作「群鶴(其一)」をはじめとする秀逸な屏風作品を紹介します。

また現代の日本美術院からは、日本画壇を牽引する那波多目功一や西田俊英らの花鳥画作品を展示します。那波多目功一は牡丹をモチーフとした作品が有名ですが、再興第98回院展出品作「寂光」では幻想的な雰囲気醸し出す花菖蒲の群生を描いています。

その他、日本画の新しい可能性を切り開いた画家として、フジイフランソワ、田中武らの作品を紹介します。田中武の「十六恥漢シリーズ」は、仏教絵画の画題のひとつで高僧を描く「十六羅漢図」になぞらえて、人間の欲や煩惱などをテーマに描く連作で、花鳥画と現代の人物像を組み合わせた点が特徴的です。

展覧会タイトルにある「おいでよ!」のように、どなたでも気軽に足を運んでいただき、老若男女問わず見るものを惹きつける魅力をもった花鳥画の世界をどうぞお楽しみください。

[天心記念五浦美術館 主任学芸主事 木内智美]



五島耕畝「孔雀乃図」
制作年不詳 個人蔵



田中武「『噂』～十六恥漢図シリーズ～」
2015年 茨城県近代美術館蔵



木村武山「群鶴(其一)」1924年
個人蔵



那波多目功一「寂光」2013年
茨城県近代美術館蔵



小林巢居人「春雪」1977年
茨城県近代美術館蔵

茨城県天心記念五浦美術館

リモートワークショップ「オリジナルかけじくをつくろう!」

ワークショップの概要

コロナ禍にあっても、「人が集まらずに実施できる美術館ならではのイベント」はできないかと考え、材料を郵送して、参加者が自宅にて制作する「リモートワークショップ」を実施しました。この「オリジナルかけじくをつくろう!」は、風景をテーマに色紙に絵を描き、手作りのかけじくセットに組み込んでオリジナルかけじくを完成させるもので、できあがった作品は画像をメールで送ってもらい、企画展「美一響くーコレクション名品選」の会期に当館ホームページにアップしました(2022年3月まで)。さらに、アップした作品画像には、学芸員がコメントをつけるとともに参加者の作品を見て是非オススメしたいと思った所蔵作品を紹介しました。

以下、館ホームページに掲載した提出作品とコメントを一部ご紹介します。

<作者名>

あやのさん(小学6年生)

<作品名>

「アザラシの赤ちゃん」

<作者の言葉>

雪の上で休んでいるアザラシの赤ちゃんです。かわいく見えるように目を大きく描いたり工夫しました。顔を描くのが特に難しかったです。また、全体が薄い色だったのでアザラシの赤ちゃんがしっかり見えるように色使いに気をつけました。

<学芸員からのコメント>

「こっちを見て」と言わんばかりのつぶらな瞳から、あやのさんのアザラシの赤ちゃんへの優しい気持ちがうかがえます。ふっくらとしたその形を的確に表現し、ふわとした柔らかさまで感じさせるところには、対象を見つめる鋭い眼差しと、それを遺憾なく発揮する写実性を認めることができます。

明治から昭和にかけて活躍した木村武山の「烏骨鶏」は羽毛の軽やかさまで表現する写実的描写によって、羽毛に包まれた鳥の温かさまで表現されています。あやのさんの作品には武山作品にも通じる写実性、描写力が備わっているように思います。

<作者名>

さくらもちさん

(小学5年生)

<作品名>

「夜」



羽毛を写実的に描写した所蔵作品を紹介しました



木村武山「烏骨鶏」1933年
茨城県近代美術館蔵



<作者の言葉>

水彩色鉛筆で夜空がグラデーションになるように塗りました。

<学芸員からのコメント>

月の光によって生まれる夜空の微妙に変化している色調が印象的な作品です。太陽の光だけでなく、月の光も浴びようとしているのでしょうか。画面右に描かれた植物が、この作品のアクセントになっていますね。

月の光をテーマにした作品をご紹介します。横山大観の「隠棲」です。月は描かれていませんが、明るい空や、人物の白衣の輝きによって、月があることを暗示させています。

月の光をテーマにした所蔵作品を紹介しました



横山大観「隠棲」
1902年
茨城県近代美術館蔵

他の参加者の作品



▲スワ
「富士山とさくら」



▲YK「富士山」



▲Yuito「花火」



▲いっちゃん
「あきのやまの
ゆうぐれ」



◀コウ
「家族で行った清水寺
からのながめ」



◀あお
「朝日を浴びる
富士山」

振り返って

小学1年生から6年生まで8名の参加者は、学校では授業で制作した図画工作の作品に、級友や教諭から作品の良かったところや工夫したところについて相互鑑賞を行っていることと察します。しかし本ワークショップでは、簡易的ではあるもののかけじくの装幀を体験し、自分の作品を見た美術館の学芸員からのコメントを受け取る貴重な体験ができました。紹介された所蔵作品に対してもより親しみをもった様子でした。活動後には保護者より「本人、家族にとって記念になり、励みになりました。」「本人はアザラシのあかちゃんのふわふわした感じが学芸員さんにも伝わったことが大変嬉しかったようです。」と感想が寄せられました。

また、材料を郵送するだけでなく、制作手順の動画配信、メールでやりとりする制作支援、当館ホームページやSNSでの作品発表などインターネットを活用することで参加者と美術館がつながり、茨城県非常事態宣言が発令された中でも計画通り実施できたことは今後にも生かされることと考えています。小学校高学年、中学生の児童生徒の参加が増加し、本ワークショップをきっかけに来館する家族があったことはうれしい反応でした。これからもイベントの内容を精選し、小中学生にとって身近に感じられる、あたたかい存在の美術館でありたいです。

茨城県近代美術館

「令和3年度教育普及アートバス事業の実践」

◇美術館に来たことがなかった子どもたちを美術館へ

教育普及アートバス事業は、子どもたちが当館に来館するためのバス借り上げ料を支援パートナーの皆様にご協力いただき実施しています（詳細は本誌P.7参照）。

来館した子どもに聞いてみると、そのほとんどが美術館に来ることが初めてでした。そのような子どもたちに、美術館で本物との出会いに感動してもらえるよう、作品の見方や楽しみ方を体験するプログラムを用意して県内小学校の受け入れをしています。

◇「美術館って楽しい!」と感じてもらえるように

この事業では、当館で開発した「ART鑑賞トランク」を使って、職員やボランティアと子どもたちがグループになって一緒に楽しく作品を見るための視点を生につける『対話型鑑賞プログラム』を行っています。対話では「作品を見て感じた自分の考えを自由に表現すること」「他人の意見を否定せずに受け入れること」を大切にしています。子どもたちからは「匂いや音などを想像しながらみんなで話をすると、みていた作品の世界がどんどん広がっていった」といった感想があります。先生からは「学校ではおとなしい子どもも自信をもって考えを話すことができていた」という声が聞かれました。

また、子どもたちの意欲を高めたり、教員と当館職員が共通理解をもち連携できるように、来館前にオンラインで子どもたちへの事前指導や学校の引率担当者との打ち合わせも実施しています。

◇また美術館に来てもらえるように

参加した子どもたちからは、「また美術館に行ってみたい」「こんなに美術館が楽しいとは思わなかった」といった声が届けられています。また、体験プログラムを通して「人それぞれの感じ方や考えがあることが分かった」「色々な考えを否定せずに受け入れる大切さがわかった」という感想も聞かれます。ここでの体験が学びの基礎となる力を身につける機会となっています。また、先生方にも、ここでの活動の内容を普段の授業の中で活用していただけているようです。当事業に参加した子どもたちが、今度は家族や友達と一緒に美術館を訪れたり、校外学習として美術館を利用するなど、次への来館につながるような活動を目指していこうと思います。



対話型アートツアーの様子

茨城県つくば美術館

「ビデオ鑑賞会」

当館では、昨年度から、月に1回、土曜日の午後に約1時間半のビデオ鑑賞会を開催しています。当館所蔵のビデオの視聴を通して、美術を身近に感じてもらい、美術作品のよさを味わうとともに、美術や美術史への関心を高めることを目的としています。これまでは、2階講座室に開設したビデオライブラリーにおいて、個人が自由に鑑賞していましたが、再生機器が古くなったため、このビデオ鑑賞会を定期的に開催することにしました。

昨年度は、「オルセー美術館」「ルーブル美術館」の各ビデオを上映しました。5月、1月、2月は、コロナ禍により上映中止となりましたが、年間で150名の方に参加をいただきました。

今年度は、「世界・美の旅」「美の美シリーズ」のビデオを上映しています。8月、9月は、コロナ禍により上映中止となりましたが、10月までで、のべ79名の方に参加をいただきました。

ビデオ鑑賞会には、幅広い年齢の方々に参加していただいています。開始30分前から来館され、開始を心待ちにされている方、終了後満足した笑みで講座室を出られる方の姿等が毎回見られます。



ビデオ鑑賞会の様子

参加者の方々の感想を紹介させていただきますと、「コロナの中、このような

企画は有り難いです。各国の美術品をシリーズで少しずつ見せていただければ、うれしいです。」「とてもよい時間でした。定期的に会を開催していただいております。楽しみにしています。」「好きな画家についての鑑賞会をやっているのを知り、参加しました。知らないこともあって、知識を深めることができました。」「ブリューゲルの独特の画風、世界観も見てとれて、とても良かったです。』

当館で所蔵している古いビデオが、このようなすばらしい時間を生み出していることは、大きな喜びです。現在、参加者に書いていただいているアンケート「再上映を希望するビデオ名」を集約し、次年度のビデオ鑑賞会の計画を立てています。参加してくださる皆様の期待に応えるためにも、数に限りがあるビデオをさらに効果的に活用しながら、ビデオ鑑賞会を継続していきたいと思っております。

茨城県近代美術館企業パートナーシップ事業

本県における文化芸術の一層の振興を目的に、当館と当館の活動を支援しようという企業・団体（以下「パートナー企業」という。）がパートナーシップを結び、両者が一体となって美術館運営に取り組む「企業パートナー制度」は2年目を迎えました。今年度の主な取り組みについて、これまでの経過等をご紹介します。

<主要事業の経過報告>

◇企画展への支援

- ・「いわさきちひろ展」(2021年7月24日～8月29日)では、見て、触れて、ちひろの世界をあそびながら体験できる企画を支援。大人も子どももあそべる展示としてplaplax制作のメディアアート作品2点の展示費用を負担しました。

※コロナ禍による臨時休館のため8月17日で閉幕



plaplax「絵の具の足あと」 2018年

- ・バルビゾン派から印象派に至る19世紀風景画を紹介する「ランス美術館コレクション 風景画のはじまり コローから印象派へ」(2022年2月9日～3月27日)では、開催費用の一部を企業パートナーシップ事業で負担します。コロー、ブーダン、モネ、ルノワール、ピサロなどの選りすぐりの名品約80点を展覧します。海外から絵画作品を大規模に借用しての展覧会は実に9年ぶりとなります。



◇朗読&ピアノコンサート

パートナー企業対象の特別企画として、朗読家見澤淑恵さんとピアニスト五木田綾さんによる《朗読&ピアノコンサート「幸せ」とは～いわさきちひろの絵とともに～》を開催しました。

コンサートでは、ちひろが生涯のテーマとしていた「子どもの幸せと平和」を願うメッセージを感じることができ、コロナ禍の中であって、これまで当たり前と思っていた日常の幸せや平和について、深く考える機会となりました。閉館後のプライベート鑑賞では、ちひろの描いた作品が一層愛おしく感じられるイベントとなりました。

※日 時:2021年7月24日(土) 15:30～19:00

参加者:企業パートナー9社、約90名



特別企画 朗読&ピアノコンサート

◇教育普及アートバス事業

本事業は、小学校における文化芸術の鑑賞や体験などの環境づくりを推進し、子どもたちの豊かな感性と創造性を育むことを目的に昨年度スタートしました。具体的には、来館の際のバス借り上げ料を助成するとともに、展覧会鑑賞をはじめ、ハロー！ミュージアムや対話型アートツアー、ワークショップなど館が提供する様々な体験プログラムを通して、子どもたちは芸術作品の見方や楽しみ方を学ぶことができます。今年度は20市町村25校から申し込みがあり、昨年12月末までに17市町村22校が来館しました。



対話型アートツアーでの様子

パートナー企業の皆様



近代美術館友の会



INFORMATION

MOMA
IBARAKI

1月～4月のご案内

茨城県近代美術館

〈企画展・関連イベント〉

〈ランス美術館コレクション〉

風景画のはじまり コローから印象派へ〉

2月9日〔水〕～3月27日〔日〕

・講演会「シャンパーニュ 産業と文化の華」
【講師】山本昭彦氏(ワインジャーナリスト)
期日: 2月20日〔日〕
時間: 午後2時～午後3時30分
会場: 地階講堂
定員: 100名 ※要事前申込/参加費: 無料

・学芸員による鑑賞講座
「降り注ぐ光の中で—フランス近代風景画の流れ—」
【講師】澤渡麻里(本展担当学芸員)
期日: 3月5日〔土〕
時間: 午後2時～午後3時30分
会場: 地階講堂
定員: 100名 ※要事前申込/参加費: 無料

・令和3年度 第2回ミュージアムコンサート
「ピアノの調べ〜フランスの風を感じて〜」
【出演】廣瀬由香里(ピアノ)
期日: 2月27日〔日〕
時間: 午後5時45分～午後6時45分
会場: 当館エントランスロビー
定員: 150名程度
※要事前申込/要企画展チケット半券(当日以外の消印可)

〈所蔵作品展 第1展示室〉

〈日本の近代美術と茨城の作家たち 冬から春へ〉

2月1日〔火〕～4月17日〔日〕
※3月14日〔月〕に一部展示替え

〈所蔵作品展 第2展示室〉

〈花と緑へのまなざし〉

2月1日〔火〕～3月6日〔日〕

〈木村武山 彩色杉戸絵〉

3月9日〔水〕～4月17日〔日〕

〈アートフォーラム展示〉

〈風景画の“はじまり”とは?〉

1月25日〔火〕～次年度

〈その他のイベント〉

・令和3年度高校生特派員美術展覧会
期日: 1月15日〔土〕～1月23日〔日〕
会場: 地階講座室 ※入場無料

・令和3年度第3回美術館セミナー
【講師】七字純子(パステル画家)
期日: 2月11日〔金・祝〕
時間: 午後1時30分～午後4時
会場: 地階講座室
対象: 県内の教員等
定員: 20名 ※要事前申込/参加費: 無料
申込締切日2月1日〔火〕

※各イベントの詳細や申し込み方法は当館ホームページをご覧ください。

茨城県つくば美術館

〈土曜講座〉

時間: 各日午後1時30分～
会場: 2階アルスホール
料金: 無料

1月8日〔土〕
・第10回「国宝修理の実際—新納忠之介「日記」をひもといて」
【講師】中田智則(天心記念五浦美術館企画普及課長)

2月12日〔土〕
・第11回「北澤美術館名品展 エミール・ガレとドーム」
【講師】岩井基生(茨城県陶芸美術館主任学芸員)

3月12日〔土〕
・第12回「降り注ぐ光のもと—ランス美術館コレクション
に見るフランス近代風景画の魅力」
【講師】澤渡麻里(茨城県近代美術館首席学芸員)

〈貸ギャラリー展〉

1月5日〔水〕～1月16日〔日〕
・福田玲子展 生きてきたこと【絵画】

1月18日〔火〕～1月23日〔日〕
・第14回茨城一陽展【絵画・彫刻】

1月25日〔火〕～1月30日〔日〕
・第30回つくば市文化協会芸術展【総合】

2月8日〔火〕～2月20日〔日〕
・令和3年度卒業制作展 筑波大学芸術専門学群卒業制作展【総合】

2月22日〔火〕～3月6日〔日〕
・令和3年度修了制作展 筑波大学大学院人間総合科学術
院芸術学学位プログラム(博士前期課程)修了制作展【総合】

3月8日〔火〕～3月13日〔日〕
・第21回チャレンジアートフェスティバル in つくば【総合】

3月15日〔火〕～3月21日〔月〕
・にしよしみ展 Constructive Relationships Ⅲ - 玄【絵画】
・第15回グリーン・リース展【絵画】

3月23日〔水〕～3月27日〔日〕
・FREEDOM PHOTO EXHIBITION STAGE 10【写真】

茨城県天心記念五浦美術館

〈企画展・関連イベント〉

〈おいでよ!花鳥画の世界〉

2月11日〔金・祝〕～4月17日〔日〕

・展覧会担当者による作品解説
期日: 2月27日〔日〕、3月19日〔土〕
時間: 午後1時30分～(約30分)
会場: 講堂
定員: 30名 ※参加無料、要事前申込(先着順)

〈その他のイベント〉

・新春邦楽コンサート
出演: 江川紗英(箏)
期日: 1月29日〔土〕
時間: 午前11時～、午後2時～(各回40分)
会場: 講堂
定員: 各回30名 ※参加無料、要事前申込(先着順)

〈映画会〉

・「キッド」52分
期日: 3月6日〔日〕
時間: 午前10時30分～
会場: 講堂
定員: 30名 ※無料、要事前申込(先着順)

※新型コロナウイルス感染症の影響により、イベントが中止または延期となる場合がございます。最新の情報を各館ホームページ等でご確認ください。



茨城県近代美術館

〒310-0851
水戸市千波町東久保666-1
TEL 029-243-5111
FAX 029-243-9992

HP <http://www.modernart.museum.ibk.ed.jp/>



茨城県つくば美術館

〒305-0031
つくば市吾妻2-8
TEL 029-856-3711
FAX 029-856-3358

HP <http://www.tsukuba.museum.ibk.ed.jp/>



茨城県天心記念五浦美術館

〒319-1703
北茨城市大津町橋2083
TEL 0293-46-5311
FAX 0293-46-5711

HP <http://www.tenshin.museum.ibk.ed.jp/>

県立美術館3館(近代美術館・天心記念五浦美術館・陶芸美術館)共通の年間パスポートを発売中! 詳しくはお問い合わせください。

美術館では以下の方は無料で展覧会をご覧いただけます。

○土曜日美術館の高校生以下の方(ただし、土曜日が夏季、冬季及び学年末・学年始における学校の休業日に当たる時は除きます) ○教育活動としての茨城県内の小・中・高・義務・中等教育・特別支援学校(県外含む)の児童生徒及び引率者並びに教育活動としての茨城県内の幼稚園の幼児の引率者 ○国際交流事業として国外から本県に留学している方 ○児童福祉施設、身体障害者更生支援施設、知的障害者支援施設、老人福祉施設に入室している方及び付き添いの方(1人につき付き添い1人まで) ○身体障害者手帳、療育手帳の交付を受けている方及び精神障害者保健福祉手帳の交付を受けている方並びに付き添いの方(1人につき付き添い1人まで) ○指定難病特定医療費受給者証の交付を受けている方並びに付き添いの方(1人につき付き添い1人まで) ○生活保護法により扶助を受けている方

友の会ニュース 友の会では皆様のご入会をお待ちしております。

〈お知らせ〉

①令和3年10月2日(土)～17日(日)まで「令和3年度茨城県芸術祭美術展覧会」が開催され、延べ55名の友の会会員の皆様が来館され、作品を鑑賞いたしました。前回の「美術館だより」120号の友の会ニュースでもお知らせしたように「友の会会員証」の呈示により無料でご覧いただけます。次年度、ご来館の際には会員証をお持ちいただくようお願いいたします。会員証がない場合は有料となりますのでご了承下さい。皆様の来館をお待ちしております。

②新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、近代美術館では「日時指定WEB整理券」を導入いたしております。詳細は近代美術館HPをご覧ください。
※ただし直接来館し少しお待ちいただいてからの入場も可能です。

詳しいお問い合わせ

・年会費、ご入会等に関する詳しいお問い合わせは県近代美術館友の会事務局(☎029-243-5111)または県天心記念五浦美術館(☎0293-46-5311)にお問い合わせください。

・友の会ホームページでも年会費、ご入会等に関して確認できます。

<https://www.fmoma.com>

